

研究に関するご協力をお願い

福島県立医科大学感染制御学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における臨床検体の使用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2026 年 7 月

福島県立医科大学医学部感染制御学講座 山藤栄一郎

■ 研究課題名

野兔病の臨床検査体制の整備に向けた検討

■ 研究期間

2026 年 7 月 ～ 2027 年 3 月

■ 研究の目的・意義

本研究では、従来の野兔病野生株不活化抗原に代えて野兔病ワクチン株（LSV 株）を用い、病原体取扱規制に伴う負担を軽減しつつ、LPS や外膜タンパク質等を抗原とした、より安全で簡便な血清学的検査法の構築を目指します。野兔病は患者報告数が減少している一方、見逃し症例や自然界での病原体維持が示唆されており、潜在的再興感染症として重要です。また、海外では流行地域も存在することから、輸入感染症としても留意が必要です。

本研究により LSV 株を用いた検査系を確立することで、地方衛生研究所等における検査体制整備の障壁を低減し、地域の診断能力および公衆衛生の向上に寄与することが期待されます。

■ 研究対象となる方

本研究は以下の既存保存血清を研究対象候補とします。

1 患者血清

1973 年 1 月 10 日から 2024 年 3 月 31 日までの期間に採取され、本学に保管されている血清のうち、抗体検査等により野兔病菌体に対する抗体価が陽性と判定され、保存血清リストに記録されている患者由来の既存保存血清を対象候補とします。

ただし、保存血清リストには過去に保存された血清の記録が含まれていますが、現時点において全ての血清の保管が保証されているわけではありません。このため、本研究で使用する血清は、対象抽出時点で保管が確認され、かつ検体量および保存状態が解析に適しているものに限定します。

なお、対象抽出時点で保管が確認できない血清、検体量が不足している血清、または保存血清リストと実際の検体との対応関係が確認できない血清は、研究対象から除外します。

2 健常者血清

「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 ダニ媒介性感染症の総合的な対策に向けた研究」（承認番号：一般 2021-152）において研究に参加された方のうち、当該研究の実施時に収集された血清について野兔病の抗体検査で陽性と判定された方の血清を、本研究において二次利用します。

■ 研究の方法

保管されている血清を用いて、従来の血清学的検査（MAT）及び新たに開発するラテックス凝集法を実施し、それぞれの検査結果や抗体価を比較することで、診断法の有用性を評価します。

■ 試料・情報の利用を開始する予定日

2026 年 8 月 1 日

■ 研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学感染制御学講座であり、研究責任者は感染制御学講座 山藤栄一郎です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 鈴木弘行であり、それらの情報は福島県立医科大学感染制御学講座で利用し解析を行います。

■ この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部感染制御学講座 担当：門馬直太

電話：(024)547-1348

e-mail：naotamon@fmu.ac.jp